



2013 ver.



アクセス

- 車** <東京方面>
上信越自動車道長野IC→R19→県道長野大町線→小川村
- <名古屋・大阪方面>
長野自動車道安曇野IC→R147・高瀬川右岸道路→大町市
→県道長野大町線→小川村

- JR** <東京方面>
北陸新幹線長野駅下車→川中島バス高府・初引行き高府下車
- <名古屋・大阪方面>
篠ノ井線→長野駅下車→川中島バス高府・初引行き高府下車

- 飛行機** 松本空港→松本駅→長野駅
→川中島バス高府・初引行き高府下車

お問合せ 小川村観光協会 (小川村役場内) 〒381-3302 長野県上水内郡小川村大字高府 8800-8
TEL.026-269-2323(代) FAX.026-269-3578 [web](http://www.vill.ogawa.nagano.jp/kankou/) http://www.vill.ogawa.nagano.jp/kankou/



信州
小川村
案内手帖

暮らす、村。

信州 小川村

暮らす、村。

小川村は、長野県の北部、長野市と白馬村のほぼ中間に位置し、雄大な北アルプスの眺望が自慢の、人口3000人ほどの小さな村です。村の面積の7割が山林で、標高500〜1000mの地域で人々が暮らしを営んでいます。春夏秋冬、里山の自然と、星が美しい場所としても知られています。村内各所に走る、曲がりくねった山道の先には、ていねいに耕された畑が連なり、かつては蚕を飼ったという農家の集落があり、人々が今も山の恵み、里の恵みを大切にしながら暮らしています。自然と人の営みが生み出した尊い風景が今も残る村です。

ここは本州の「ヘソ」!

[東経] 137度58分40.2708秒
[北緯] 36度39分17.75736秒
本州の平面図において、均衡を保てる点=重心が小川村・法地地区にあります。

人の心をひきつける ありのままの、美しい自然

さまざまな表情の
アルプスに出会える



「アルプスは、いろんな楽しみ方がありますよ。季節、時間帯、場所：コレって限定し難い。どこから見てもきれいですしね。早朝の澄んだ空気の中での眺めも良いけど、9時半から10時頃、光が山肌にやや斜めに当たる頃のコントラストが撮影には最高。夕景もシルエットが夕闇の空に鋭く浮かびあがって見惚れます。季節では、残雪と新雪の時期。白と空の青、桜、紅葉や村里の暮らしとの調和が絶妙です。村内各地から様々な表情を見ることができそうですが、展望広場があって、大洞高原まで続く県道36号線がきれいに見えます。塩沢や立屋も山容が変わって素晴らしいですよ。いずれにせよ、車を降りて自分の足で少し歩いてみると、自分だけの風景を見つけられるので、ちょっと

西条さん夫妻
二人は地元小川山岳会40
年来のメンバー。前頁のアルプスの写真は二人で一年の準備を経て撮影した。夫妻は小川村から西に一望する後立山連峰をはじめ多くの山に親しむ。共に写真をライフワークのひとつとし、小川の自然と風景を見つめ続けている



ちよつとズク出して
自分だけの風景を
見つけるのがおすすめ

『ズク』を出すことをお勧めします。大洞高原から30分ほどの飯縄山に登ってみるだけで、別の世界が広がります。小川村からのアルプスの眺めは後立山連峰の全景が見えることが特徴。アルプスを実際に眺めながら、『明日どの尾根から登ろうか』なんていう会話ができます。中心に位置する鹿島槍ヶ岳の均整のとれた双耳峰が象徴的姿かな。雄大なアルプスの麓に人々の暮らしぶりがある：それが一番の魅力だと思います。

残雪と菜の花のコントラストが美しい春の風景。味大豆にて



北アルプス

星空

光害の少ない所、空がひらけて見えるところは星空を楽しむのにおすすめ。日本記にて

満天の星空とプラネタリウム ☆星の拠点☆に人々が集う



「小川村の天文台で空気がどれだけ透き通っているかを測っていたことがあるんですが、県内の天文台の中でいつも小川村が一番か二番になるんです。光害も少なく、星がきれいに見えます。また、プラネタリウムもあるので一緒に楽しむのがおすすめ。プラネタリウムを見た後に、外へ出て実際の星空を見るとさらに感動しますよ。地元の有志が音楽や絵本の読み聞かせなど『プラネタリウムカフェ』を開催しています。プラネタリウム・天文台の拠点が、星が好きな人、地元の人、観光客の人、誰でもそれぞれに星を楽しむのがいいですね。」

天の川が見えるのは、
星がきれいな証拠です



星の仕掛け人・とくしげ先生
小川小にて理科の専科教員を4年半勤める。村づくりの活動ほかプラネタリウムでの企画にも携わる。大人も子供も参加できる「星の学校」を構想中



2



1



3

①天文台 ②天文台にある天体望遠鏡。60cmの大きなレンズは県内でも珍しい ③プラネタリウムはアナログの装置と質のいいスクリーンが特徴で、味わいのある上映が楽しめる



1



2

一番古い木は60年前のもの。
古い木になるりんごは
味が落ち着いておいしいんだよ



3



4



手とこころで 育んだ、村の宝物 畑

「百姓は、雨が降らなきゃ雨がほしいって言うし、太陽が出なければ晴れてほしいって言うしで贅沢でねえ」

十人十色、畑事情あれこれ

1 西山大豆のこと。

小川村を含む長野盆地西側に位置する「西山」地域でつくられた大豆は、質のよいことで知られる。粘土質の土と寒暖差のある気候がおいしい大豆を育てるといふ。

3 有機農業に取り組む。

村外から移住し有機農業を営む人も。「農業が盛んな地域に比べ、のんびりしているのがいい」。山に囲まれた立地を生かし、工夫するのはやりがいもあるのだとか。

2 りんご、つくってます。

村内には大小30ほどのりんご農家がいる。なかでも成就地区は栽培が盛ん。傾斜があることで水はけがよく、陽当たりもよいので質のよいりんごができる。

4 麦畑のある風景。

初夏、黄金色に色づき始めた麦の穂。風に揺れる姿が美しい。村内では、今も麦や豆を育てる風景をあちこちで見ることができる。小麦は粉ものにして食べる。

豆をまく時はハトに見られちゃいけないんだよ

「豆をまく時はふたつずつ、穴をあけてそこへ落として土をかける。あとは芽が出るのを待つ。ただハトには気をつける。芽が出たところを食べちゃうからね」



昔は山の峰まで畑だった。この手と、足と、背中でみーんなやっつたもんだ。昔は山の峰までみーんな畑だった。山のむこうの畑まで歩いて行ったもんだよ。背中になんでも背負って、鉄でうなって、ぜんぶこの手と足と、背中でやっつたもんだ。かつて小川村の畑では、おもに大豆、大小麦が作られていました。そのほかお蚕さんのえさとなる桑を育てたり、麻やたばこを栽培した時期もありました。昔は一生懸命すぎて贅沢を言う暇もなかった。お金のことなんて考えたことなかったし、働いてご飯食べられればそれでよかっただよ。貧しかったけれど平和だったなあ。この心が、この村の美しい風景を守り続けています。



なつかしいあたらしい

暮らし



「おやきはしょっちゅうつくるよ」ときくこばあちゃん。「おおいのやらいさいのやら、その家の作り方がある。むかーし、囲炉裏の灰の中で焼いたおやきは美味しかったなあ」



冬に備えて、野沢菜、たくわんなどの漬物はもちろん、しょうゆ豆や、野沢菜の葉を寒干しする「干葉(ひば)」や干大根もつく。乾物は夏野菜がでくる前などにも活躍する

あるものに感謝し
足るを知る



「昔はねえ、朝と昼はお米を食べたが、夜は大体粉もの。一日一回、粉ものも食べなきゃさみしいってくらいでね。おやき、うどん、ぶっこみ、おつめり、せんべい。それからそば。みんな囲炉裏でやつたもんだよ。ごはんのおかずは、季節のもの、あるものを食べた。百姓はうまいもんは食べられないけど、そのかわり腹が減って困るということはなかっただよ。」

隣近所は、大きな家族」

「よくねえ、隣近所で『もらい風呂』つてのをやっただよ。水を汲むのも大変だし、薪ももったいなくて毎日沸かせ



小さな、だけど大切な、日々のよろこび

1 ものづくり。

村内には、染織、木工、陶芸、万華鏡など、いくつかの工房があり、作家たちがひそかに制作を続けています。自然に囲まれた暮らしが作品を育みます。

3 薪と山の湧水。

かつて各家庭には囲炉裏があり、湧水を汲んで使いました。時代の流れとともに生活も変わりましたが、薪で暖をとり、山の湧水を使う暮らしも健在です。

2 お茶っこ。

「信州は空気が乾燥してるから、お茶は“めつた”汲むんだよ」。茶碗のお茶が少なくなったら継ぎ足すのが礼儀。お茶請けには季節の山菜や野菜、豆、煮物、漬物が登場。

4 アイターナな人々。

豊かな自然と田舎での暮らしを求めて移住する人も。畑で自分たちが食べる分の野菜を育てたり、昔ながらの古民家を改修したり。楽しんでいる人多し、なのです。



おやきのつくりかた ①小麦粉、ベーキングパウダーなど材料をまぜる ②水を入れてこねる ③生地を丸め、のばし、具を包む ④こんがりと両面を焼く、または蒸す

洗濯する時も
洗剤なんかなかった。
水だけで洗ったヨ。



なかった。今みたいにピカピカに磨かなくたってよかったしなあ。今日はこの家、明日はあの家というように順番で風呂を沸かした。沸いたら拍子木を鳴らして知らせたりしてね。風呂に入るのを待ってる間、お茶飲んでさあ。最後の人が入る頃にはお湯も汚れたけどありがたく入ったねえ。醤油を借りたり、隣近所は家族とおなじようだったよ。」

小川村で 出会った人々

村内をぐるっとめぐるとめぐったら、
こんな人々に出会いました。

村歩きノート
まだまだ知らない、
村の素顔をたずねて。



巣箱。ここに蜂が
蜜を集める

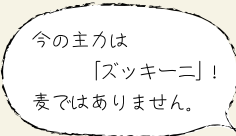
てまひまと
誠意が生み出す、
宝石のような、はちみつ

「おらのとこは完熟蜜だからな」。
アカシア、ラベンダー、そば…。じっ
くり時間をかけてしぼったはちみ
つは、花のいい香りと、うっとりす
るような蜜の味がします。



ちいさな養蜂家・古屋さん夫妻

20年以上前、知人が蜂をくれたことがきっかけで“蜂飼い”の世界へ。5年ほど前より商
品としてはちみつを販売。誠意ある仕事ぶりを信頼してたずねて来るはちみつ好きも



今の主力は
「ズッキーニ」！
麦ではありません。

こころ躍る農業が
ここにある。麦ダンス

心がけるのは、農薬・化学肥料は使用しない、その
土地に合った栽培。土・水・太陽などの自然の恵
み、さまざまな小動物や微生物の生命の営み、そ
こへ人の手が加わり持続可能な環境が作られる。
耕作放棄地が多くなる中、そんな現状へ歯止めを
かけたいとの想いで農業に取り組んでいる。

麦ダンス農園の農夫・大沢さん
2009に小川村へ。3年間の農業研修
の後、2012に独立して有機農業に
取り組んでいる。

皆さんの健康づくりに
役立てるよう、頑張ってます

ばあちゃんたちが手摘みした薬草
山の恵みを集めて届ける仕事人

村内で採れた薬草を集荷し、注文に応じて
出荷。「山が荒れ、薬草を採る人も少なく
なったけれど、薬草の仕事を続けることで
山林整備にもつながれば」と、地域の未来を
想う姿がありました。

「塩沢薬草加工所」所長・小林さん
三代目としてこの道うん十年のお母さんと共に
稼業を営む。ドクダミ、げんのしょうこなど10種
類の薬草を取り扱っている



これが薬草

長年の経験と
カンが頼り！

猫のパートナー
であり、愛犬の
ハチヤ



生命に感謝しながら役割を果たす、山の番人

キジやヤマドリ、鹿のほか、ここ数年はイノシシ、
シカが増えて畑を荒すようになり、その駆除に取
り組んでいる。「このまま放っておくとひどくな
る。趣味というより半分使命感でやっています」。

ベテランハンター・伊藤さん
小川村猟友会会員。ハンター
歴40年の今も現役で年間60日
は猟に出る。本業は建具職人



バス停
路線バスは地元の人々の
足となっている。バス停
には椅子やベンチが置か
れている。



アマランサス
秋、真っ赤な花をつける
アマランサス。美会地区
などで栽培されている南
米の雑穀。



久木の立看板
久木(ひしゃぎ)地区への
入り口にある看板。「心の
ふるさと ようこそ久木
へ」などとある。



薬師の湯
看板には「虫倉温泉 薬師
の湯」。地域の人が自ら薪
を焚いて湯を沸かし利用
している。



小川神社
地域の人々が大切に守っ
ている小川神社。申年、寅
年には御柱祭が盛大に行
われる。



大町峯街道
糸魚川街道・大町と北国
街道・善光寺を結びにし
えの道。北アルプスの眺
めも美しい。



高府の商店
商店や旅館がぼつぼつと
並び、営業を続ける高府
の町並み。本屋さんもあ
る。

小川村 歩き方マップ



※地図の詳細は別刷の案内マップをご覧ください。

明松寺・馬事公苑では馬術でオリンピック選手を輩出



「ふるさとらんど小川」で小川村の歴史に触れてからスタート。室町時代に「小川城」と呼ばれ、一帯を治めた大日方氏が築いたとされる古山城跡をたずね、その後はお寺巡り。「ねこ寺」の名でも知られ、恩返しをした猫の伝説が伝わる法蔵寺、信濃三十二番観音札所の西照寺、続いて三十三番の結願所である高山寺、大日方氏ゆかりの明松寺。豊かな自然と融合したお寺の風景も見応えがあります。

おすすめ

小川村の歩き方



随所でアルプスを眺められる県道36号線。まずは、アルプス展望広場でその美しさをじっくり感じよう。その後は大洞高原へ。雄大なアルプスの姿を見ながら、芝生広場でのんびりしたり飯縄山のトレッキングなど思い思いの時間がすごせます。お腹がすいたら地場産センターでおやき、そばをどうぞ。ロマン館では宿泊のほか、食事や日帰り入浴も可。プラネタリアムのは後には実際の夜空を体験して。

アルプスと星を眺める



おやき村とさんさん市場は、地元の人々や暮らしに出会える場所。山の上にあるおやき村では、囲炉裏や「ばあちゃんち」のようなお座敷があり、年季の入った!? スタッフが心あたたく迎えてくれ、おやきやそばなどの郷土の味が楽しめます。また、さんさん市場では村内の畑で採れた新鮮な野菜や山菜、豆腐や醤油などの加工品を販売。地元のお母さんたちが食材の食べ方もアドバイスしてくれます。

畑と暮らしを垣間みる



探検気分が訪れたい、隠れた名所はココ。天然の洞窟にひっそりと18体の石仏がたたずむ「薬師洞窟」、全長1.3kmにおよぶ遊歩道がある「薬師沢石張水路工」。風にゆれる緑と水路のせせらぎが心も体も癒してくれます。体を動かした後は、村営のいで場「小川の湯」で汗を流して。寄り道するならパワースポット「本州のへそ」もおすすめ。

隠れた名所を探検する



暦

こよみ



冬

11月上旬 新そば祭り(村内随所)
12月上旬 野沢菜採り・漬けツアア
1月 社会福祉大会
どんと焼き(村内随所)

※各イベントについての詳細は
観光協会にお問い合わせ下さい。

秋

9月 稲刈り
10月上旬 小川神社秋祭り
中旬 武部八幡宮秋祭り
村民ビック
おまつりスペシャル
in O G A W A

夏

6月上旬 おやき恋訪in小川
8月上旬 サッカーフェア



春

3月上旬 やまびこフォーラム
4月中旬 西山大豆フェア(道の駅)
5月 武部八幡宮春祭り
下旬 桜ウイーク
5月 田植え
5月3日 小川神社春祭り

お祭り



小川神社御柱祭り
小根山小川神社の御柱祭り。申・寅年に行われます。諏訪大社とは同じ方式で執り行われ、800mにもなる里曳き行列がみどころです。



武部八幡宮秋祭り
武部八幡宮の春秋二期の例大祭は街道随一として有名。とくに10月の秋祭り前夜祭には4台の引燈籠巡行のほか神楽、花火が献納され賑わいます。

役場の位置

東経 137° 58' 40"
北緯 36° 36' 51"
海拔 510m



村章

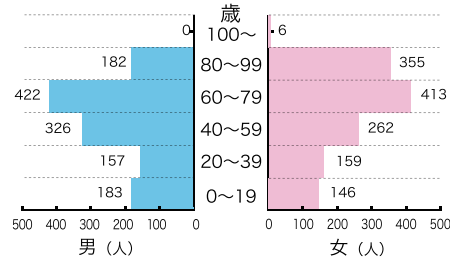


小川村の「小」の字を图案化したもので、天に向かって真っすぐにのびる村の限らない発展を意味する。さらに「小」の全体の形は、大空にそびえたつ大木を表わしている。これは全村民の友愛と団結により、美しい自然と活気ある産業を守り、難関を切り開いて未来への力強い躍進の姿をも象徴している。(昭和48年11月1日制定)

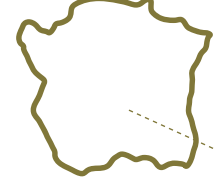
人口 2,611人

男1,270人 女1,341人

世帯数 1,081世帯 (平成29年4月1日現在)



小川村マスコット
キャラクター
愛称「おやキング」



面積

58.11 km²

特産物あれこれ

西山大豆



そば



りんご



おやき



小川村発足50周年記念写真集「おがわの百年」(平成17年)小川村発足50周年記念写真集編集委員会編集小川村役場発行より、写真キャプションともに抜粋させていただきます。



「気をつけ」をして並ぶ、昭和31年(小根山町)。背後の家はくず屋根ばかり。



越道線バスの試運転に出発、昭和33年10月10日高府営業所で。



石垣の上にとっしり立つ、茅葺きの家、昭和39年ころ(瀬戸川)。



出征兵士の家で、昭和18年(皆明)。父母、嫁さん、幼い子2人の留守家族。イロリでおやきを焼く光景の写真は、戦時中のもとしては珍しい。



大正末の若い女性。村にもハイカラな風潮が入ってきた。



高府の商店の「第二運動会」、明治44年。自転車は当時最新の流行の乗り物だった。

写真でみる小川村

「おがわの百年」より